

何ごとにも現状に甘んじていてはならない。 「これでいい」は後退の始まりである

愛媛県大洲市 愛媛舗道株式会社社長
小林 哲之

人口は漸減傾向 市街地は拡大へ

大都市や主要幹線の交通問題は別として、地域社会における交通を考えるためには、その地域を取り巻く自然や風土、人情、風俗、習慣などその地域の生活環境の特性について知っておかなければ核心をとらえることができないと思う。もう少し、私が生まれ育った故郷のことを述べたい。

列島からなる日本はまことに長い海岸線をもっているけれども平野が少なく、山岳森林地帯の多い国である。四国はことにその傾向がはなはだしい。本州から四国にきて道路を走ってみていただくと、そのことはただちに実感してもらえらるだろう。大洲市はそういう四国の山に

囲まれた盆地である。

少子高齢化が問題になっているが、大洲市の人口は目下5万人を切っていて減少傾向にある。このところ毎年10000人規模で減少している。将来を考えると市長さんはじめ住民は気をもんでいる。

日本各地で同じような姿が見られると思うが、大洲の場合、人口だけを見ると私の子供のころと今とでそれほど変わってはいない。しかし市街地の規模はずいぶん大きく広がっている。近郊の高台に設けられた立派な展望施設に登ると大洲盆地を一望することができるが、その風景は私の子供のころの遠足で同じ山に登って眺めた記憶に比べると大きく変化しており、市街地が4倍ほどに膨らんでいるように見受けられる。つまり住居を中

はミッドウェイ海戦の状況が大きく報じられている。日米の連合艦隊が太平洋の制海権を争って交戦した大海戦である。ご存知のように日本海軍が再起不能なほどの大損害を受け、敗北への道程が決定的となった運命の一戦だった。それもみな戦争が終わった後でわかることで、軍が一手に報道を管理していた「大本営発表」であるから、新聞には事実が報じられていない。いずれにせよ、私は日本が

一路敗退に向かった日に生まれたのである。

私が生まれたころ、父は小規模な土木業を営んでおり、松山方面と宇和島を結ぶ予讃本線を全通させる工事の下請け業者になっていた。トンネルを掘るために発破をかけトロッコで土砂岩石を運び出すといった、当時のことであるから危険と背中合わせの荒くれ男を使いこなす仕事の先頭に立っていたと想像される。

そのうちに運送業も始めていたが、やがて運送業は戦時統合で他の会社と一緒にになり大手に統合されていく。戦局が進んで男ならだれでも徴兵されるようになる。父にも召集令状がきて出征。あとに残されたのは祖母と母、男は幼児の私だけという家庭になった。大水害が起って私を背負った母が辛うじて難を逃れたりしたのも、そのような時代のことであつた。

絶えざる自問自答 『これでいいのか』

かつて大洲は榎の実からとる木蠟や伊予生糸の集散地であり、肱川の水運によっても栄えた町であつた。今に残る旧家の蔵造りなどに、その面影を見ることが出来る。江戸時代の初めに米子から移ってきた加藤氏が明治維新まで藩政をとつ

心に建物が4倍に拡散し、世帯数が増えてきた割に人口はそのままということになる。

この現象は住宅事情の好転や核家族化といった理由によるものだろうが、道路施設の整備や自動車の普及が生活地域を拡大させる推進力になってきたのは確かだと思ふ。半世紀前に比べて住宅事情がよくなったということはめでたいことではあるが、今日と違って昔はひとつ屋根の下に2世代、3世代が肩を寄せあうように暮らしていた姿がめずらしくなかったことも懐かしく思い出される。

誕生した日の新聞には ミッドウェイ海戦記事

私が生まれた日の昭和17年(1942年)6月7日付の新聞を見ると、そこに

た居城は、川を見おろす端麗な山城であつた。

その大洲城は明治に入って民間人の手に渡り、やがて破却された。地元でその復元の願望が盛り上がり平成16年になって完成したが、私の父は観光協会の会長なども引き受け、その肝煎り役となつていささかお役に立つたように思う。城の建築はコンクリートではなく、昔をしのぶ木造でということになって、いま、大洲には全国でも珍しい木造4層の天守閣が肱川の流れに影を落としている。

戦後の父は、復員すると再び土木建設の事業を始め、道路舗装の仕事の先鞭をつけるようになって次第に会社の基盤を固めた。もともと、不断の研鑽とアイデアを大切にし『これでいいのか』と自問自答しながら、自分も社員もそれぞれの仕事に励み、人格を磨くということを実践した経営者だったといえる。

会社の社訓となつた『これでいいのか』という精神は、あらゆる方面に発揮されたわけであるが、父はとくに公共のためを考え、地元の発展に資するという気概を持っていた。肱川の鵜飼を民営に切り替え、いかに魅力あるものにするかを競ってもらい、日本三大鵜飼の一とす



小林哲之(こばやし さとし)さんのプロフィール
1942年(昭和17年)愛媛県大洲市生まれ。愛媛舗道株式会社社長。大洲高校から麻布獣医科大学(現・麻布大学)に進み65年卒業と同時に父君が創業し経営する愛媛舗道株式会社に入社、83年社長となり今日に至る。早くから交通安全の重要性に目を向け81年大洲安全運転管理者協議会会長に就任(在任25年)、89年愛媛県安全運転管理者連絡協議会副会長(同12年)、2001年より会長(同5年)をつとめ、愛媛県高速道路交通安全協会副会長(同5年)なども歴任した。事業所の運輸管理を中心に地域社会における安全活動の推進力となって強いリーダーシップを発揮し、その功勞により2005年春の第45回交通安全全国国民運動中央大会においては全国優良安全運転管理者協議会の代表として表彰状を受けた。



絵・市川興一